

令和元年

第3回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

令和元年第3回仙北市議会定例会 市政報告

令和元年第3回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、一般会計補正予算(第1号)についてです。

補正額は8,991万8千円で、補正後の額は212億591万8千円となります。

主な追加事業は、モビリティサービス推進事業費、プレミアム付商品券事業費、予防事業費、森林経営制度管理事業費、小学校施設管理費、市民野球場管理運営費などです。第2表債務負担行為補正は追加です。

なお、平成30年度一般会計決算見込み及び市税関係については、5月31日の出納閉鎖後の決算数値を精査し、最終確認を行った上で本定例会中に報告の機会を持ちたいと思います。

それでは、各部局等の主要事項並びに諸般の状況を報告します。

【総務部】

◇令和元年春の叙勲受賞について

5月21日、春の叙勲の発表がありました。仙北市では元仙北市議会議員の安藤武(あんどうたけし)さんが、地方自治功勞で旭日双光章を、また、元仙北市消防団長の佐々木久悦(ささききゅうえつ)さんが、消防功勞により瑞宝単光章を、それぞれ受章されました。

この度の受章は、永年にわたる職務の精励や功績、功勞が認められたものです。市民の皆さんと共にご労苦に感謝し、心からお祝いを申し上げます。

◇仙北市ふるさと納税について

全国の皆様から仙北市を応援したいと寄せられた平成30年度のふるさと納税額が、過去最高の1億5,129万9千円となりました。増加の要因としては、会員数の多いインターネットサイトへ登録したこと、返礼品数を増やしたこと、市内産あきたこまちの人気の高かったことなどと考えています。

ふるさと納税については、改正地方税法が3月に成立し、6月1日から新制度が始まりますが、当市はこれまで基準を満たしていたことから、来年9月まで税優遇対象に指定され、これまでどおりの制度運用が可能です。

◇秋田内陸線全線開業記念式典について

4月19日、北秋田市阿仁ふるさと文化センターにおいて、秋田内陸線全線開業30周年記念式典が挙行されました。多くの来賓からのお祝いの言葉に続き、これまで内陸線を支援してきた団体に、吉田裕幸(よしだひろゆき)社長から感謝状が贈呈されました。また、社員からは今後も会社の価値向上に向け努力を続けると力強い宣言もありました。

式典終了後には、元地方創生担当大臣で、衆議院議員の石破茂氏の記念講演が行われました。

◇クニマスの追加貸与について

山梨県のご厚意によりクニマス30匹が秋田県に追加貸与され、4月25日、15匹が田沢湖クニマス未来館に到着しました。

このクニマスは2017年12月に人工授精で生まれた1歳魚で、体長は15cmほどですが、元気に群れとなって泳いでいます。

また、5月28日には、県の阿仁試験池から3匹のクニマスが追加され、計18匹となっています。ぜひ1度ご覧いただければと思います。

このような状況だったこともあり、連休中の入館者は前年同期に比べ896人増の2,460人にのびりました。

◇新角館庁舎整備事業について

新角館庁舎建設工事の入札については、これまで2回の不調が続き、市民の皆様には大変ご心配をおかけしています。

この結果を受け、再度、設計内容について慎重に検討作業を行っているところです。6月中旬までには精査が終わる見込みで、作業終了次第、再々公告を行いたいと考えています。

◇和解金請求訴訟の経過について

株式会社渡辺佐文建築設計事務所との和解金訴訟の経過については、5月30日に被告側からの準備書面提出を受け、13回目の弁論準備手続きが行われました。

今後のスケジュールとしては、7月16日までに被告側の陳述書が提出され、7月19日に14回目の弁論準備手続きを行い、9月初旬に証人尋問を行うこととなりました。その後は、新たな手続きを必要とする事案がなければ、約2ヶ月後に判決となる予定です。

◇農業分野での近未来技術の活用について

5月2日、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社(本社:仙台市)の協力のもと、農事組合法人生保内南のほ場をお借りし、ロボットトラクターによる自動耕起のデモンストレーションを行いました。

また、5月30日には、株式会社池田(本社:由利本荘市)の協力のもと、認定農業者鈴木八寿男(すずきやすお)さんのほ場(角館町雲然碓)をお借りし、ラジコンボートやドローンによる除草剤散布のデモンストレーションを行いました。

農業分野における近未来技術の導入については、昨年度から、国の地方創生推進交付金を活用して事業を進めていて、今年度は育苗ハウスの温湿度センサーや、水田の水位センサーを用いた農業IoT導入実証を開始しています。

今後も近未来技術の活用により、体力や労力の軽減、作業の効率化、新規就農者の増加を目指します。

◇スマートシティモデル事業の採択について

国土交通省は、AI、IoT等の新技術や官民データを活用して地域の課題を解決するスマートシティの取り組みを推進することとし、3月から4月にかけて、スマートシティモデル事業を公募しました。

市は、株式会社フィデア総合研究所をはじめとする民間企業や東北大学等と共に「仙北市スマートシティ推進コンソーシアム」を結成し、この事業に応募し、5月31日付けで「先行モデルプロジェクト」として採択されました。この「先行モデルプロジェクト」は、今年度、国土交通省スマートシティ実証調査事業による予算の支援をいただけるものです。

今後は、コンソーシアムのメンバーと連携し、自動走行を目指したオンデマンドサービスのデータ取得、水素ドローンの開発計画及び実証、観光人流データの取得、農業IoTなど、市が抱える様々な課題解決を目指し、事業を進めます。

【市民福祉部】

◇新たな障害福祉サービス事業所について

市内で障害者福祉サービス事業所「愛仙」などを運営する社会福祉法人秋田ふくしハートネットは、西木町西荒井に生活介護等複合型障害福祉サービス事業所を建設し、4月3日に竣工式が行われました。

事業所の名称は「愛仙の華」で、生活介護(定員22人)、包括型共同生活援助(グループホーム、定員5人)、短期入所(定員2人)の3種類のサービスを実施しています。

また、竣工式に併せて、市と同法人との「災害時における福祉避難所の設置及び運営に関する協定」を締結し、「愛仙の華」を福祉避難所として指定しました。市では、福祉避難所として既に3団体5施設と協定を締結していますが、障がいの特性を理解し生活支援が受けられる福祉避難所が初めて設置されました。

◇温泉休養施設(クリオン)貯湯槽及びろ過機改修工事について

6月下旬から8月下旬まで給湯用貯湯槽及び温泉用ろ過機の工事を

実施します。予定どおりに進むと、工事のため7月7日から8月7日まで温泉営業を休業します。日頃からクリオンをご利用のお客様には大変なご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

なお、温泉プール、ご宴会等は通常どおり営業します。

◇にこにこ子ども園、ひのきない子ども園の民間移譲について

西木地区2園の民間移譲について、関係者への説明会を行いました。現在、両園の保育業務を委託している仙北市社会福祉協議会の職員には、移譲先となる社会福祉法人はなさき仙北の就業規則等の内容や、職員採用についての説明会を5月21日と22日に開催し、また、保護者へは5月24日、両園を会場に開催し、移譲しても現在の保育環境に大きな変化はないことをお話ししました。

なお、はなさき仙北では、両園に勤務している社協職員を対象とする任用試験を7月中旬に実施すると伺っています。令和2年4月から、はなさき仙北による運営を円滑に行うため、本定例会に関係条例の改正を提案しています。ご審議をよろしくお願いします。

◇風しんの追加対策について

昨年7月以降、国内では関東地方を中心に風しんの患者数が増加しています。これを受け、全国すべての自治体において、風しんの追加対策を行うこととなりました。対象者は、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた(40歳から57歳)男性で、今年度の追加対策の対象者は、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた(40歳から47歳)男性です。予防接種をしていなくても、厚生労働省では、抗体保有率を80%と見込んでいることから、対象者の方々の抗体検査を実施し、その結果によって予防接種が必要か否か判定されることとなります。これらに対応するため補正予算に所要額を計上しています。ご審議をよろしくお願いします。

【観光商工部】

◇角館の桜まつりなど、あきた花紀行の入込客数について

角館の桜まつりは、4月20日から5月5日までの16日間の開催でした。GWと桜の見頃がちょうど重なったことや、桜が咲いてからの気温変動が緩やかで、桜を楽しめる期間が長かったのが特徴です。

今年は初めてまつり期間直前から観光課SNSの運用を始め、開花状況や渋滞状況などタイムリーな情報発信力を強化しました。

また、夜桜ライトアップを昨年より規模を拡大して実施したことにより、夜桜を見る観光客で武家屋敷通りや横町橋下流の桧木内川堤、屋台広場などが賑わったほか、SNS上への写真投稿も多くみられました。飲食店など事業者からも、夕方以降のお客が増えたという声が聞かれ、入込客増に貢献したようです。入込客数は昨年と比較すると9万9千人増の140万1千人となり、一般財団法人秋田経済研究所によると、期間中の経済波及効果は56億円と試算されていて、昨年から約7億円の増となりました。

刺巻水ばしょう祭りは、4月7日から5月5日までの29日間の開催でした。GWに入ると葉が大きくなり、見頃が少しずれてしまったこともあり、昨年と比較すると1万6千人減の10万5千人の入込客数となりました。また、水ばしょう祭り25周年を記念し、5月4日に地元の若者会が中心となり「芭蕉の森のキャンドルナイト」が行われました。

八津・鎌足のカタクリは、4月20日からの予定を二日早めて4月18日から5月5日までの18日間の開催でした。晴天が続いたことで花が一気に咲き進んだことから、連休中頃には花が終盤となり、昨年と比較すると3千人減の約8千人の入込客数となりました。

◇（一社）田沢湖・角館観光協会の日本版DMO候補法人登録について

（一社）田沢湖・角館観光協会は日本版DMOへの登録を目指し、その前段となる「日本版DMO候補法人」に申請し、平成31年3月29日付けで、観光庁が認定する「日本版DMO候補法人」に登録となりました。

今後は、観光関係者、商工会、交通事業者、金融機関、地域住民な

ど多様な事業者と円滑な連携を図りながら、一体となって観光地域づくりと観光地域経営を行っていくことが求められます。

◇ JR秋田支社・DMO候補法人（一社）田沢湖・角館観光協会との連携協定について

5月7日、仙北市における観光需要の更なる創出を図るため、JR秋田支社、DMO候補法人である（一社）田沢湖・角館観光協会、市の3者による「観光まちづくり」に関する連携協定を締結しました。

今後、本協定に基づき観光資源の掘り起こし、観光PR、旅行商品の造成、6次産業化の検討や推進等について、これまで以上に連携して実施します。

滞在型ホテルの推進として、JR秋田支社では古民家等を改装した宿泊施設の整備を市内数カ所で検討していると伺っています。市所有の西宮家を第一候補地として、その整備・運営について、指定管理団体である株式会社西宮家を含め検討をしているところです。

また、5月25日、26日には旅行商品として「五感楽農」が催行され、首都圏を中心に23人が参加し、専用農場での農体験や、農家民宿での滞在、温泉入浴体験等で仙北市の魅力を感じていただきました。

◇ 「八幡平ドラゴンアイ」のCool Japan Award 2019受賞について

5月27日、「Cool Japan Award 2019」の受賞式が京都府で開催され、仙北市に所在する八幡平の鏡沼、通称「八幡平ドラゴンアイ」が、National Park部門を受賞しました。全国307の候補から、53の受賞作品のひとつとして受賞となったものです。

「八幡平ドラゴンアイ」は、これまで岩手県八幡平市、同観光協会、鹿角市や鹿角地域振興局が中心となってプロモーションをしてきた、5月下旬から6月上旬にだけ現れる観光スポットです。しかし、立地が仙北市にあるということで、今回の受賞団体は仙北市と八幡平市観光協会とのダブルネームとなりました。

これを機に、田沢湖、秋扇湖、宝仙湖、玉川温泉、さらには八幡平までを国道341号やアスピーテラインで結び、このエリアでの観光流動の拡大を関係各所と調整していこうと考えています。

◇秋田駒ヶ岳山開きについて

6月1日、秋田駒ヶ岳の山開き行事を開催しました。登山者の安全等を祈願するもので、仙北市と雫石町が合同で毎年開催しています。当日は4年ぶりに天候に恵まれ記念登山を行い、山頂で両市町のピッケル交換を行いました。

秋田駒ヶ岳には毎年多くの登山客が訪れています。一方で登山者による事故等も多いことから、安全に登山できるよう滑落事故防止等の危険箇所の案内表示や登山道、雪渓等への道標の設置を行いました。

今後も秋田駒ヶ岳の火山活動に留意しながら安全対策を進めます。

◇地域観光資源の多言語解説整備支援事業の採択について

観光庁が公募していた地域観光資源の多言語解説整備支援事業に、4月15日付けで採択をいただきました。この事業は、観光庁が多言語解説の専門人材を仙北市に派遣し、訪日外国人旅行者の訪れる観光地に外国語の解説文の充実を図るものです。武家屋敷や角館祭りのやま行事、田沢湖、玉川温泉などの観光資源の多言語解説整備に取り組み、仙北市や田沢湖・角館観光協会のホームページに反映し、より地域の魅力をわかりやすく発信したいと考えています。

◇外国人材（台湾）の採用について

まち・ひと・しごと創生本部が実施する「外国人材による地方創生支援制度」を活用し、台湾から外国人材を1人募集しています。9月1日着任に向け、現在手続きを進めています。着任後は国際交流推進室で台湾向けの情報発信などの業務にあたる予定です。

◇(株)セレクトラ 角館事業所 新築工事について

6月3日、(株)セレクトラ(本社:千葉県市川市)と事業所建設用地について、市有財産賃貸借契約を締結しました。

新工場は11月中旬に操業予定と伺っています。新たな雇用拡大を期待しています。

【農林部】

◇田沢湖玉川地区の国有林への入山禁止措置について

秋田森林管理署と市は、田沢湖玉川地区の国有林での事故発生を踏まえ関係機関と検討・調整した結果、昨年を引き続き、この春の雪解けから秋の降雪までの期間、国道341号沿いから国有林への入林を禁止することとしました。

国有林に接続する林道入口へ進入禁止ゲートの設置、規制線や看板設置などの措置を行っています。

山菜採りなどで入林を予定していた皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解をよろしくお願いいたします。

◇農地集積加速化基盤整備事業について

田沢湖神代地区で事業実施中の県営ほ場整備事業は、今年度分として3月に入札が行われ、市内7業者が落札しています。全体計画のうち、南側の国館周辺で7工区、全体面積58.6haの面工事が11月末までの工期となっています。

また、生保内南地区では、暗渠排水と市道付け替え工事のほか、基盤整備に併せ地元法人が整備する乾燥調製施設についても、本年秋の稼働へ向け建設に着手したと伺っています。今後さらなるコスト削減や高品質な稲作農業の展開を期待しています。

【建設部】

◇令和元年度国庫補助事業について

令和元年度社会資本整備総合交付金事業費国庫補助金について、当初予算の内示率が約38%と昨年度の42%よりも更に低い内示率とな

り、予定している事業進捗が望めない状況です。国庫補助金の補正予算の有る無しを問わず、強力な要望活動を行いたいと考えています。議会の皆様のご支援もよろしく申し上げます。

◇地域高規格道路整備について

5月24日、国道46号「地域高規格道路」盛岡秋田道路整備促進期成同盟会総会、地域高規格道路大曲・鷹巣道路整備促進期成同盟会総会を開催しました。

国道46号の期成同盟会総会では、盛岡秋田間の沿線全市町が一丸となって活動を強化し、高速移動時代に対応できるアクセス道路の整備として、刺巻地区の線形改良、第2仙岩トンネルの整備を含む道路改良について、推進事項とすることを確認しました。

大曲鷹巣道路の期成同盟会総会では、仙北・北秋田両市境の大覚野峠を含む14.3kmの地域高規格道路整備促進、また狭隘箇所を早期解消について、推進事項とすることを確認しました。

今年4月1日には災害時に国が最優先で復旧し、平常時もコンテナ車などの超大型トラックが事前の許可なしで通行でき、物流の効率化を図ることを目的とした「重要物流道路」に、本県では国道46号を含む797kmが指定されました。またその「補完路」として国道105号を含む500kmが指定されました。

今後は、両同盟会とも関係する自治体と連携し、関係機関への要望活動や市民フォーラムなどを開催し、さらに気運を高めたいと思います。議会の皆様の特段のご理解をお願いします。

◇水道事業について

今年度は、山谷川崎地区と卒田地区で水道未普及地域解消事業を行う計画です。

山谷川崎地区は、「簡易水道等施設整備費国庫補助」を活用し事業を進めることとしていましたが、厚生労働省から「生活基盤施設耐震化等交付金」として採択したい旨通知があり、要望額全額の6,157万6千円

の内示がありました。なお、国庫補助の変更に伴う事業概要などに変更はありません。計画どおり送水ポンプ場建設並びに配水管設置を行う予定です。

卒田地区は、水道需要調査を行い、この調査結果を踏まえ、既存施設の活用と経費節減が可能かどうか、再度検討し実施設計を進めたいと考えています。

◇下水道事業について

下水道事業は、桧木内クリーンセンターの改築更新工事を行う計画です。機械設備や電気設備の更新が主な事業内容で、人口減少等による汚水処理量の減少を踏まえ、設備の規模を縮小して実施する計画です。現在、契約手続を進めていて、本定例会に工事請負契約の締結議案を追加提案したいと考えています。

【医療局】

◇市立角館総合病院院長の就任について

市立角館総合病院では、4月1日から伊藤良正(いとうよしまさ)前副院長が院長に就任しています。

伊藤院長は病院運営の基本方針を「患者様中心の医療を提供し、皆様に信頼される病院」づくりに向け、近隣病院・診療所・保健福祉機関・行政との連携を一層密にし、すべての市民の方々に必要とされる病院の実現を目指すとしています。

◇病院経営企画推進について

病院スタッフとのヒアリング等を通じ、両病院の現状を把握するとともに、新たに取得可能な施設基準等について検討を行っています。現在、一部の施設基準等については、体制整備を行い、東北厚生局に届出申請を行っています。

市立角館総合病院については、4月1日付けで株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンと経営支援サービス契約を締結してい

ます。また、4月15日には、全国自治体病院協議会と両病院の経営診断について契約を締結しています。現在、経営改善に必要な各種データの提出作業を行っています。従来型の院内視点に基づいた経営効率化のみならず、他の視点を交えた病院事業のあり方を検討のうえ、経営改善に努めます。

両病院の経営は、大変厳しい状況ですが、病院職員一丸となって取り組みます。

◇平成30年度決算見込みについて

市立田沢湖病院については、患者数の減により医業収益は減となりましたが、一般会計繰入金が増額により、24万3千円の黒字見込みです。市立角館総合病院については、患者数の減や旧病院の普通財産移管に伴い土地・建物を固定資産除却損として特別損失に計上したため、費用が大幅に増加したことから、10億6,192万9千円の赤字見込みです。病院事業全体としては、10億6,168万6千円の赤字見込みとなりますが、2月定例会でご可決いただいた、資本金減少額6億7,285万2,155円を繰越欠損金へ補てんすることとしています。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げます。本定例会に提案している案件は報告関係8件、専決処分関係5件、条例関係8件、予算関係4件、その他1件の計26件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。